

看護師の 特定行為研修 全国の指定研修機関で ぞくぞく採用中 との併用が**オススメ**です！

包括的に診る・看る力を育てる教材です！

- 特定行為研修に必要な教材をすべてご用意！ 研修をすぐに始められます
- 臨床推論やフィジカルアセスメントをはじめとした医学的知識を学び、包括的に診る・看る力を育てます
- 厚生労働省が定めたカリキュラムを満たしているだけでなく、看護をかえるためのさまざまな特長があります

論理的思考・判断力を育てる
講義・テスト



ケアに落とし込む
演習・実習



有名講師陣による
手技動画



指定研修機関になるための申請もサポート！

- 新たな指定研修機関になるための申請をサポート！ 他社教材からの切替もサポートします
- すでに指定研修機関であるご施設について、カリキュラム変更や区分別科目/領域別パッケージを追加する際の変更届作成もお手伝いいたします！

受講費用 (税別) 年度契約 年度途中からのお申し込みも可能

オプションでご契約の場合※1

10,000円 /月

看護師の
(特定行為研修)
実践サポート
 単独でご契約の場合※2

20,000円 /月

※1：学研ナースニングサポート、ビジュアルナースニングメソッド、看護師の特定行為研修（共通科目のみ）、学研訪問看護サポート（50ID）、学研介護サポート（施設契約・法人契約）のいずれかをご利用の場合

※2：受講者用IDの上限数は50個となります。それ以上のID数をお求めの場合は営業部へお問い合わせください

お問い合わせ・資料請求は

株式会社 学研メディカルサポート
 〒141-8414 東京都品川区西五反田 2-11-8

TEL: 03-6431-1228 (代表) 平日 9:00～18:00 担当：営業部
FAX 03-6431-1414 **WEB** <https://gakken-meds.jp>



20260101

2025年10月
 約**15**テーマ
 公開済！

看護師の 特定行為研修 実践サポート

修了者の「力」をもっと現場に届けるために

施設みんなで学べるe-ラーニング



- New**
1. 千葉大学病院 総合診療科監修！ 問診動画つき臨床推論テーマが登場
 2. 麻酔領域の知識を伸ばす新コースを新設！
- 詳細は4、5ページ▶▶



修了者の「力」を伸ばすフォローアップ教材！

+

施設全体の体制づくりに必要なポイントも徹底解説！

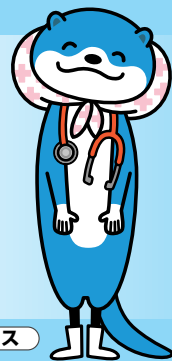


看護師の 特定行為研修 実践サポート

とは？



ホー先生
コツナースのメンター



コツナース
勉強熱心！
でもちょっとそそかしい看護師

- 特定行為研修修了者の「力」をもっと伸ばしたい
- 特定行為を使ったケアをもっと患者に届けたい

このようなご施設の声にお応えして、さまざまな**学びと情報**を提供します！

修了者をフォローアップ！

アセスメント・臨床推論の医学・
看護知識、活躍の場で必要な
周辺知識を15分～30分で
フォローアップ！



⇒P3へ

施設の体制づくりをサポート！

病院・施設全体で
制度を知り、体制をつくる！



⇒P6へ

ご利用
（施設の声）

自部署における特定行為研修修了者の育成・配置を考える

当院は2024年度より指定研修機関として特定行為研修を実施しています。特定行為研修管理委員会で策定した「組織の配置・活用ビジョン」を理解し、自部署の配置・活用ビジョンを作成するため、看護師長会議でグループワークを行いました。

【看護師の特定行為研修 実践サポート】の「制度理解・体制整備コース」の動画視聴は看護管理者の共通認識に繋がり、ワークシートを用いた議論は自部署での修了者の活動を具体的にイメージする機会となりました。



※掲載内容は2025年10月現在のものです

社会福祉法人恩賜財団
大阪府済生会千里病院

左: キャリア支援室室長
西畑 公雄 様

中央左: 看護部長
瀬古 理香 様

中央右: 特定行為研修担当 副看護長
赤井 知香子 様

右: キャリア支援室看護師
斉藤 律子 様

修了者の医学・看護知識をフォローアップ！

特定行為アセスメントコース

特定行為および看護ケアを3つのステップで考える
自らが判断して特定行為および看護ケアを提供するための
情報収集力、判断力、連携力を鍛えます

Point!

特定行為以外の対応も一緒に検討！
それぞれの区分別科目修了者に向けて、
おすすめコースをご用意！

動画の流れ

1 症例情報と設問の提示



3
回
行
い
ま
す

2 ワーク提出



3 解説視聴



ワークは3種類

- ワーク1 情報収集力 アセスメントに必要な情報を考える
- ワーク2 判断力 特定行為を行うかを判断する
- ワーク3 連携力 医師および多職種に情報を共有する

※テーマによりワークの変更があります

「ワンポイント」で手順書の活用方法や、
病態についてより深い学びをご提供！

テーマ一覧はP4へ

臨床推論コース

他者の臨床推論の過程を
批判的に検討する

合ってる？間違ってる？

看護師として患者に最善の「医療」を選択するために必要な
臨床推論力を鍛えます

Point!

一緒に学習する修了者のコツナースが登場！
彼の臨床推論は本当に合っている？
間違えやすいポイントを徹底解説

動画の流れ

1 症例情報とコツナースの臨床推論の提示



- ・主訴
- ・既往歴
- ・患者情報
- ・ROS
- ・身体所見
- ・検査結果
- などが提示されるよ



2 ワーク提出



3 解説視聴



医師の思考過程を復習



「ワンポイント」で最新情報や
疾患のプラスアルファの知識もご提供！

テーマ一覧はP4、5へ

特定行為アセスメント(区分別)コース

テーマ名	講師（所属）
経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	吉田 奏 先生 聖路加国際病院 麻酔科・周術期センター 周麻酔期看護師
侵襲的陽圧換気の設定の変更	半崎 隼人 先生 大阪府済生会中津病院 集中ケア認定看護師/特定行為研修修了者
非侵襲的陽圧換気の設定の変更	畑 貴美子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー NP・NDC研修センター 特定ケア看護師/クリティカルケア認定看護師
人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 人工呼吸器からの離脱	半崎 隼人 先生 大阪府済生会中津病院
気管カニューレの交換	本田 和也 先生 国立病院機構 長崎医療センター 教育センター・脳神経外科 副看護部長/ 診療看護師 (NP)
一時的ペースメーカーリードの抜去 一時的ペースメーカーの操作及び管理	栗尾 晶 先生 国立循環器病研究センター 副看護部長
経皮的心肺補助装置の操作及び管理	津藤 菜緒 先生 国立循環器病研究センター 診療看護師 (NP)
大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整	鈴木 拓郎 先生 名古屋ハートセンター 診療看護師
心嚢ドレーンの抜去	津藤 菜緒 先生 国立循環器病研究センター
低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更 胸腔ドレーンの抜去	五十嵐 真里 先生 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 特定行為看護師養成分野 講師
腹腔ドレーンの抜去 (腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。)	筑井 菜々子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー NP・NDC研修センター 診療看護師 (NP)
胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	五十嵐 真里 先生 国際医療福祉大学大学院
膀胱ろうカテーテルの交換	谷山 尚子 先生 医療法人輝彩 ヒカリノ診療所 社会医療法人愛愛会 大東よつば病院 診療看護師 (NP)
中心静脈カテーテルの抜去	小波本 直也 先生 聖マリアンナ医科大学病院 看護部 診療看護師 (NP)
末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	小波本 直也 先生 沖縄県立中部病院 看護部 診療看護師 (NP)
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 創傷に対する陰圧閉鎖療法	戸北 正和 先生 長崎大学病院 診療看護師室 特定行為研修室長 兼 看護部長 皮膚・排泄ケア特定認定看護師
創部ドレーンの抜去	筑井 菜々子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー
直接動脈穿刺法による採血	山田 亨 先生 東邦大学医療センター大森病院 看護部 看護管理室 主任看護師/ 急性・重症患者看護専門看護師/特定看護師
橈骨動脈ラインの確保	高林 拓也 先生 愛知医科大学病院 診療支援部門 NP部 診療看護師 (NP) 主任
急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	大森 真由美 先生 川崎市立多摩病院 (指定管理者 聖マリアンナ医科大学) 腎不全看護認定看護師
持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調節 脱水症状に対する輸液による補正 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与 インスリンの投与量の調整	畑 貴美子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー
硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	高林 拓也 先生 愛知医科大学病院
持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	山田 亨 先生 東邦大学医療センター大森病院
持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	畑 貴美子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー
持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	森 一直 先生 愛知医科大学病院 NP部部長/愛知医科大学 看護学部 臨床教授
持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	畑 貴美子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー
持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	森 一直 先生 愛知医科大学病院
抗けいれん剤の臨時的投与	平井 克城 先生 岐阜大学医学部附属 地域医療医学センター 特任助教/診療看護師 (NP)
抗精神病薬の臨時的投与	小波本 直也 先生 沖縄県立中部病院 看護部 診療看護師 (NP)
抗不安薬の臨時的投与	松元 亮二 先生 愛知医科大学病院 診療支援部門 NP部 診療看護師 (NP)
抗がん剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整	山口 麻里 先生 Research Associate, Cincinnati Children's Hospital Medical Center Allergy and Immunology

※講師の肩書は収録時のものです

臨床推論コース

テーマ名	講師（所属）
「朝、ずっとぼんやりしていて」意識障害	
「お腹がドーンとするような感じ」腹痛	内藤 貴基 先生 聖マリアンナ医科大学 救急医学 助教
「なんだかきもちが悪いのよぉ…」食欲不振	
「頭がずきずきと痛みます！」頭痛	春田 淳志 先生 慶應義塾大学 医学部 医学教育統轄センター 教授
「胃のあたりが苦しい」胸痛	中村 通孝 先生 西和医療センター 集中治療科 副部長
「飲んでいたら急に目の前がぐるぐるし始めた」めまい	
「なんかしんどのいのよ…」発熱	山本 興幸 先生 東京ベイ・浦安市川医療センター 総合内科
「く・る・し …」呼吸困難	
「気づいたら床にいた…頭が痛い」転倒・転落	中村 通孝 先生 西和医療センター 集中治療科 副部長
「家の中を歩き回ってるんです」徘徊	春田 淳志 先生 慶應義塾大学 医学部 医学教育統轄センター 教授
「首がずきずきと痛くて…」頸部痛	藤川 裕恭 先生 慶應義塾大学 医学部 総合診療教育センター 助教
「お腹が痛いです…」下腹部痛	
「母の認知症が進んだ」	山田 悠史 先生 Brookdale Department of Geriatrics and Palliative Medicine Icahn School of Medicine at Mount Sinai
「路上で発見されました、意識がありません」低体温	三反田 拓志 先生 東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科 (集中治療部門) 医長
「お腹が痛いようですが、不穏でこれ以上聴取できません」不穏	
「4日前から便がでません」便秘	野口 善令 先生 豊田地域医療センター 総合診療科 教育顧問
「起きていられないくらいだるい」全身倦怠感	山本 真輝 先生 藤田医科大学 連携地域医療学 助教/ 豊田地域医療センター 総合診療科
「寒気がして震えが止まりません」腰痛	磯川 修太郎 先生 聖路加国際病院 救急科 医幹
「下痢がひどくて、全身もだるいです」発熱	
「足がしびれて座れません」しびれ	佐藤 健太郎 先生 聖マリアンナ医科大学病院 整形外科学講座 助教

千葉大学病院 総合診療科監修！
問診動画つき臨床推論が
公開されました！

冒頭では患者の訴えをもとに、
疾患を想起してもらいます



4日前からの発熱と咳で来院した38歳男性（救急外来編）	柳田 育孝 先生 千葉大学大学院医学研究院 診断推論学 特任助教
発熱と喉の痛みで来院した5歳男児（救急外来小児編）	李 宇 先生 千葉大学大学院医学研究院 診断推論学
発熱のある失語で寝たきりの78歳男性（在宅医療編）	曾我井 大地 先生 さんむ医療センター 総合診療科
1週間前からの左胸の痛みと発赤で来院した88歳女性（診療所編）	横川 大樹 先生 千葉大学大学院医学研究院 診断推論学/ 千葉大学医学部附属病院 総合診療科
2年前からの倦怠感を主訴に来院した78歳女性（診療所編）	小島 淳平 先生 千葉大学大学院医学研究院 診断推論学/ 千葉大学医学部附属病院 総合診療科

※講師の肩書は収録時のものです

特定行為アセスメント(領域別)コース

New

2025年10月から術中麻酔管理領域の
知識を強化する10セッション(約30テーマ)
が追加されました!

各テーマ15～30分

講義(9セッション)

各特定行為ごとに麻酔器、
麻酔の影響など
手術室で必要な周辺知識を強化

ワーク(事例)(1セッション)

共通科目や領域別パッケージで
学んだ知識を統合

術中麻酔管理(手術室)

セッション名	講師（所属）
術前評価	関 博志 先生 杏林大学 医学部 麻酔科学教室
麻酔薬について	関 博志 先生 杏林大学 医学部 麻酔科学教室
呼吸器(気道確保に係るもの) 関連	佐藤 暢一 先生 東京都済生会中央病院 副院長/ 麻酔科・集中治療科 部長/ 人材育成センター センター長
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの) 関連	山本 舞 先生 日本大学 医学部 麻酔科学系 麻酔科学分野
動脈血液ガス分析関連	若林 諒 先生 東京大学医学部附属病院 麻酔科・痛みセンター
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	若林 諒 先生 東京大学医学部附属病院 麻酔科・痛みセンター
術後疼痛管理関連	寺嶋 克幸 先生 がん研有明病院 麻酔科 (ペインクリニック)
循環動態に係る薬剤投与関連	寺嶋 克幸 先生 がん研有明病院 麻酔科 (ペインクリニック)
症例を元に術中の流れを学ぶ ワーク	内藤 祐介 先生 奈良県立医科大学 麻酔科学教室
術中におけるトラブルと対応	内藤 祐介 先生 奈良県立医科大学 麻酔科学教室

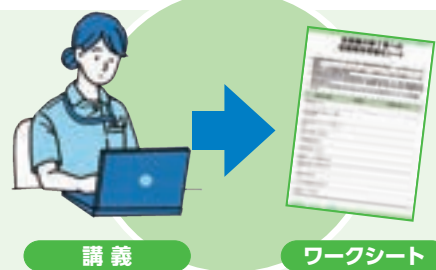
※講師の肩書は収録時のものです



制度理解・体制整備コース

自施設の現状に合わせて段階的に学べる

特定行為に関する施設の課題解決をサポート！
解決方法を検討し、体制を段階的に整えられます！



講義

ワークシート

自施設に落とし込むためのワークシート付き

講義では、修了者活躍を実現するためのプロセスを解説
さらに「ワークシート」に取り組むことで
自施設の現状分析のポイントと具体的な方策がみえてきます
患者・スタッフ向けのポスターなどのサンプルもあります



それぞれの立場に向けて

特定行為運営委員会、看護管理者、医師など
修了者とかかわるすべての人向けにそれぞれの役割を解説！

修了者に	どのような活動をしたいかを考えるきっかけと伝えるためのツールを提供します
特定行為運営委員会に	修了者の活動を施設全体で支えるためのヒントをお伝えします 他施設の成功事例（修了者の活用ビジョン、仕組みなど）もご提供します
看護部に	修了者の独り立ちや病棟での活躍に向けて、 看護部や協働するみんなでできることをお伝えします
医師に	修了者とともに働くことをイメージするために、特定行為に関する制度、法的位置づけ、医師の役割をコンパクトにお伝えします



すでに現場で活躍している修了者、
協働する多職種のインタビュー動画も追加公開！

テーマ一覧

対象	テーマ名	講師名(所属)	時間
修了者関連	修了者として活躍するためのコツ	筑井 菜々子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー NP・NDC研修センター 診療看護師	約45分
	周囲との関係性構築のコツ		約35分
	特定行為研修修了者としての活躍～RRSの場合～	藤田 玲 先生 横浜市立大学 附属市民総合医療センター 看護部	約15分
	PICCCの実践状況	鈴木 達也 先生/蓮江 健一郎 先生 医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 特定行為研修修了者/副院長	約15分
特定行為運営委員会関連	第一の障壁突破：構想 特定行為研修修了者を活かす・育てるビジョンの持ち方	佐伯 昌俊 先生 千葉大学大学院 看護学研究院 看護学研究所・看護学部 先端実践看護学研究部門 高度実践看護学講座	約10分
	第一の障壁突破：育成と配置 特定行為研修修了者の育成と配置		約15分
	第二の障壁突破：活用 特定行為修了者を迎える組織管理者と部署管理者が行うこと	中井 智子 先生 滋賀医科大学医学部附属病院 看護師特定行為研修センター 看護臨床准教授/認定看護管理者	約15分
	第二の障壁突破：普及・周知 特定行為研修修了者の持続的な活躍促進のために		約15分
	院内に修了者を広める仕組み～PICCC～	鈴木 龍太 先生/小澤 美紀 先生/蓮江 健一郎 先生 医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 院長/看護部長/副院長	約15分
看護部関連	第一の障壁突破：構想 部署の配置活用ビジョンをみんなで作る	西宮 岳 先生 千葉大学医学部附属病院 副看護部長	約20分
	第一の障壁突破：育成・配置 特定行為研修受講者の学びを支え、修了者を迎える		約15分
	第二の障壁突破：活用 特定行為研修修了者とともに働く	鈴木 靖子 先生 地域医療振興協会 JADECOMアカデミー NP・NDC研修センター 次長	約15分
	第二の障壁突破：普及・周知 持続的に活躍できるチームになる		約15分
医師関連	医師が知っておくべき特定行為研修制度	北川 裕利 先生 滋賀医科大学 麻酔学講座 教授 / 看護師特定行為研修センター長	約15分
	医師が特定行為研修修了者と協働するためのポイント	大島 拓 先生 千葉大学大学院 医学研究院 救急集中治療医学	約15分
	特定行為研修修了者を含む チーム構築・運用のコツ(前半・後半)	中村 京太 先生 横浜市立大学 附属市民総合医療センター 医療の質・安全管理部 診療教授	約20分

※講師の肩書は収録時のものです

制度理解・体制整備コース監修者から一言

「病院・施設全体で取り組む大切さ」

特定行為研修修了者が組織のなかで活躍するためには、病院・施設全体で体制整備に取り組む必要があります。患者、利用者、国民に対してより良い医療提供を行うために、また特定行為研修修了者の活動を説明するために、そして修了者を孤立させないために、多くの施設で試行錯誤を繰り返していらっしゃるかと思います。今回、「制度理解・体制整備コース」として組織的に修了者の導入、複数配置、活用、普及に取り組む際の道しるべとなる教材をつくりました。教材では施設の機能や状況に合わせた修了者の育成、配置、活用、普及、周知のプロセスをわかりやすく解説しています。



酒井 郁子 先生
(千葉大学大学院 看護学研究院
先端実践看護学研究部門
高度実践看護学講座 教授)